



Title	IDUN VI を出すにあたって
Author(s)	岡田, 令子
Citation	IDUN. 1982, 6
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95869
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

IDUN VI を出すにあたって

今年は、また IDUN を発行する年に当り、早いもので創刊号より10年目を迎えることになりました。今回ここにおさめました論文は、(1)北欧神話のパルドル神について、(2)カーレン・ブリクセンの文体研究の一部、(3)デンマーク語の子音に関するもの、そして (4)客員教授が来日後の経験からヒントを得た課題——デンマーク語疑問文とその応答の仕方——に関するものの4つです。十分なものではありませんが、読者の皆様からの御批評などを仰ぎ、より良いものにしてゆきたいと願っております。

ちょっとこの紙上を借りまして、学科の最近の動きについてお伝えし、日頃の御無沙汰のおわびに代えたいと存じます。

昨年の3月末までお世話になりました Knud Christensen 先生に代り、4月から新しく、王立国語研究所研究員 Henrik Galberg Jacobsen 氏を客員教授にお迎えいたしました。専門家の立場から熱心に、また精力的にお仕事いただき、学生たちの進歩にも著しいものがあり、たいへん喜んでおります。御夫妻のお子様は3人で、いずれも地域の小学校と幼稚園へ通っておられます。間瀬さんはコペンハーゲンでのかつての同僚 Dr. Jørgen Rischel が国際言語学者会議に出席のため来日なさった機会をとらえ、京都を案内しながら専門的な意見交換をし、理論によるだけではなくデータに基づいた研究方向が必要だと、お二人の考え方が一致したとかがっております。

ところで、間瀬さんと菅原さんとの共編で『デンマーク語基礎1500語』が出たこともお知らせしておきましょう（大学書林1981年）。それから菅原さんの方は F. ストレム原著『古代北欧の宗教と神話』の翻訳を手がけるなど（人文書院1982年）精力的に活躍していますが、一昨年12月に最初のお子様もできて、公私ともに多忙なご様子です。

私自身は短期海外研修の機会をいただき、数年ぶりに嚴寒のデンマーク

を訪ねてきました。コペンハーゲン大学では、かねて日本からの留学生に御援助をいただいている北欧語学科の Erik Hansen 教授にお会いし、また Hans Hertel 教授のお宅での集いに同席させて頂いたりしました。そしてオーフス大学では日本語学科の方々の御活躍を目の当たりにして心強く思いました。今回の研究旅行についての大体のことは別に『中・北欧比較文化研究(3)』(本学1982年)に御報告いたしましたが、一般に、社会事情はあまり好ましい方向に向っているとは思えませんでした。とはいえ、冬は芝居のシーズン、イプセンやストリンドベリの古典劇をはじめ、Per Olov Enquist の力作「みみずたちの生涯」なども観ることができ、アンデルセンに扮した J. Reenberg の演技には感銘を受けました。ノルウェーのオスロでは恐しいばかりのインフレ、北海油田のせいもあるのでしょうか。ノーベル賞記念講演のある頃にスウェーデンの大学町ウプサラにいましたが、幸い続いてストックホルムでの授賞の式典にも参列でき、忙しいながらも実りの多い2カ月でした。

学科のことに戻りまして、去る9月の半ば東京の大蔵館から B. Lindblad 帰事が見え、最近のデンマークと日本の貿易事情などについて学生にお話し下さいました。一同に代りまして、心から御礼申し上げます。またこの秋、はじめての試みとしてオーフスから商業専攻の大学院生が18名、お二人の教授とこちらに見え、私どもは小さなパーティーを開いて歓迎いたしました。このように新しい形でデンマークとの交流ができる、うれしく思っております。

学生たちの方は、昨年の大学祭に語劇「人魚姫」の創作日本語版を上演し、今年は En solv Ring を目下練習中です。

では最後に、読者の皆様方のこれまでと変りない御支援、御教示をお願いして筆をおきます。

1982年11月

大阪外国語大学 デンマーク語学科

主任 岡 令子